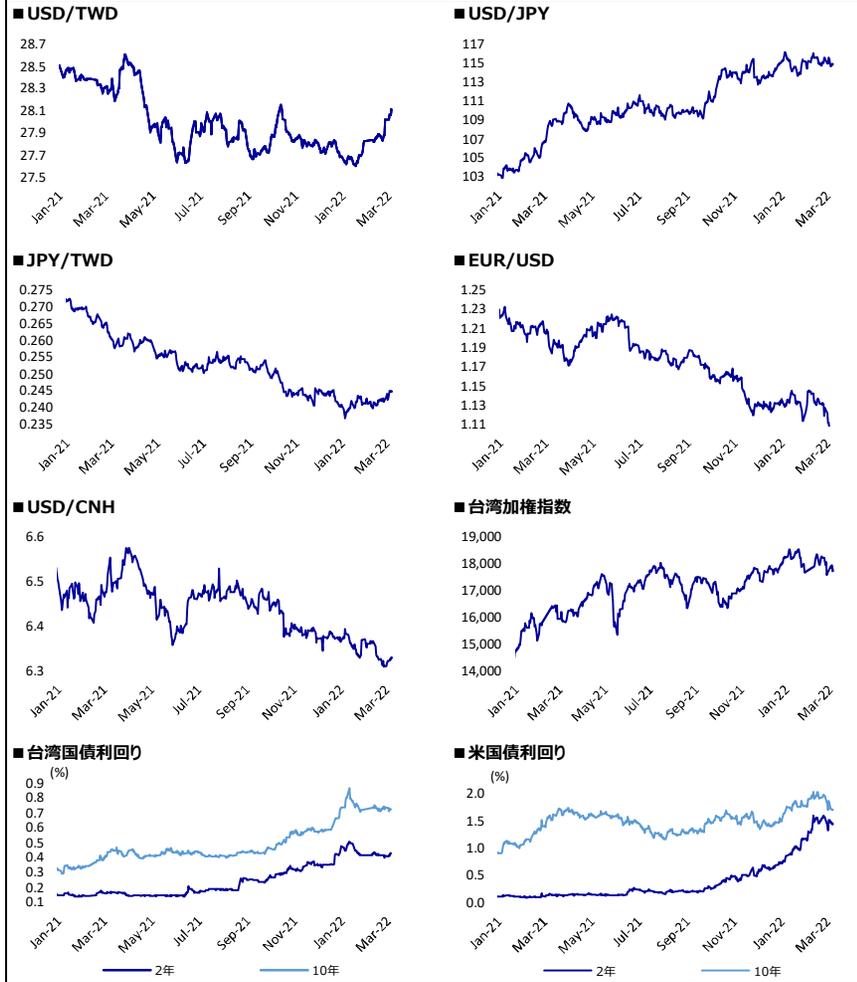


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルもウクライナ情勢の悪化を受け、リスク回避の動きから台湾ドル売り優勢に。連休明けの週初3/1は28.020でオープン後、リスクオフムードが漂うものの、ロシア・ウクライナ停戦協議への期待や輸出企業のドル売りから28.05付近でもみ合い。3/2も地政学リスクが意識される中、28.07付近まで上昇。3/3は台湾株が小幅に上昇したことや輸出企業のドル売りもあり、上値が重い展開となった。3/4はロシア軍がウクライナの原子力発電所に攻撃で火災との報道からリスクオフの流れが強まり、28.1台に乗せた。その後は輸出企業のドル売りも入り、28.07付近まで戻されたものの、外国人投資家のドル買いが強まると28.123まで上昇。最終的には先週比0.3%ドル高台湾ドル安の28.115で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は634.2億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は下落。週初2/28は115.10でオープン後、週末にロシアの大手銀行をSWIFTから排除などの西側諸国の制裁の報道からリスクオフの流れとなり、一時114.80まで下落し、その後115.80まで上昇する荒い値動きに。その後は115円台半ばで落ち着いたが、米長期金利が低下するとつられてドル円は115円を割りこんだ。3/1はウクライナ情勢を警戒し、ドル円はじりじりと下落し、WTIが100ドル台に乗せる中、リスク回避でユーロに対してドルが買われる一方、円も買われ114.70まで低下。3/2は安全資産としてドルが買われ、さらにロシアがウクライナの停戦協議の用意ありとの報道や、2月のADP雇用統計が予想より上回ったこともサポート材料にドル円はじりじりと上昇。また、パウエルFRB議長が議会証言で25bpの利上げを支持したものの、ウクライナ情勢の経済への影響や今後のインフレの状況への警戒も示したことも材料となり、ドル円は上昇し、3/3に入ると、ドル円は115.81まで上昇。しかし、米2月ISM非製造業景況指数が予想を下回ると115円半ばまで下落。3/4はロシア軍がウクライナの原子力発電所に攻撃で火災との報道からリスク回避で円が買われ115円台前半まで下げたものの、原発の重要施設は無事であったことから、ドル円は買い戻され、115円台半ばで揉み合い推移。その後、米雇用統計が発表されたが、ヘッドラインは予想を上回ったもののドル円への影響は限定的で、ウクライナ情勢への警戒感から欧米株が下落し、ユーロが対ドルで売られるとつられて円も買われ、一時114.65まで下落。最終的には先週比0.7%ドル安円高の114.66で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：28.100-28.300
ウクライナ情勢が悪化しており、リスクオフの流れが続くとみられる。引き続き、台湾株安台湾ドル安の流れが続くと見込む。

■ USD/JPY 予想レンジ：114.30-115.90
引き続きウクライナ情勢に左右される展開となるであろう。来週にFOMCを控えているが、悪化するウクライナ情勢が材料となりやすいであろう。ただし、リスクオフの際は、リスク回避でドルも円も買われやすいため、方向感出にくいと見込む。

今週の予定

3/7 (MON)	
3/8 (TUE)	台湾2月CPI、台湾2月貿易収支、米1月貿易収支
3/9 (WED)	
3/10 (THU)	米2月CPI
3/11 (FRI)	米3月ミシガン大消費者信頼感指数

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。